

一緒に考えよう!日本の未来戦略

科学技術政策は、まさにその国の未来戦略です。科学技術立国として世界をリードし続けるために、今、私たちがしなければならないことは何なのか、なにが必要なのか……あなたも一緒に、日本の未来、そして世界の未来を考えませんか?

日時 平成22年11月20日(土) 15:00~16:30(90分)

会場 東京国際交流館  サイエンスアゴラ 2010
会議室1(4階)

主催:世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)
(AIMR,IPMU,iCeMS,IFReC,MANA)、日本学術振興会
定員:80名

当日参加可。配布資料の準備の都合がございますので、参加を希望される方はできるだけご氏名を明記の上、11月17日(水)までに jspstoplevel@jssps.go.jp へ電子メールでお知らせください。

■進行

高柳 雄一 多摩六都科学館館長



NHKで科学系講座番組・科学ドキュメンタリー番組を企画演出、科学分野のNHKスペシャル番組プロデューサー・NHK解説委員として、科学技術を一般社会へ伝えてきた。退職後、高エネルギー加速器研究機構、電気通信大学で広報室を立ち上げ、科学技術研究現場と社会を結び、現在は多摩六都科学館館長として地域社会で科学技術の役割を市民と考える機会を広げている。



お申込み・問合せ先:日本学術振興会
Tel:03-3263-0967 Fax:03-3237-8015
e-mail:jspstoplevel@jssps.go.jp

アクセス:新交通ゆりかもめ「船の科学館駅」
東口下車(徒歩約5分)、「テレコムセンター駅」
下車(徒歩約4分)/東京臨海高速鉄道りんかい線「東京レポート駅」下車(徒歩15分)

■話題提供者

春日 匠 大阪大学特任助教

「科学技術と社会の新しい関係を考える-21世紀を担う『イノベーション』のために」



大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任助教。科学技術社会論・文化人類学。第三世界の生活が先端技術によってどのように変化するかなどに興味を持つ。阪大では大学や専門家と一般社会のコミュニケーションを促進するため、参加型テクノロジーアセスメントや市民の要望に基づいて研究を進めるサイエンスショップなどの事業に従事。

銅谷 賢治 独立行政法人 沖縄科学技術研究基盤整備機構(OIST)代表研究者

「世界最高水準の教育機関を目指すための新しい取り組みとは」



人間が生まれ落ちてから大人になってもさまざまな運動のしかたを学習する脳のしくみに興味を持ち、情報科学とロボット工学の視点から、脳の中の神経細胞と物質の働きを解き明かすことをめざし研究を進めている。沖縄科学技術大学院大学の構想に感銘し、先行研究プロジェクトに応募しその第一陣として2004年春に沖縄に移住。国内外から若手スタッフを集めロボット、学習プログラム、生物実験へと研究を広げている。

一杉 太郎 原子分子材料科学高等研究機構(AIMR)准教授

「公的研究機関だからこそできること、しなければならないことは」



自由奔放に発想して研究を進める。これを毎日楽しんでいる。自由というものは何ものにもかえられないもので、私が企業から大学の研究者に転じた際に最も重視したことである。現在は材料科学の研究を行っており、百種類以上の元素が結合して織りなす、無限に広がるとも言ってもよい物性(物質の特徴)の世界を走り回っている。最終目標は室温超伝導体の発見である。

福永 雅喜 免疫学フロンティア研究センター(IFReC)助教

「日米の研究者をとりまく環境の違いについて」



鍼治療における脳内作用機序への興味から研究者としてのキャリアを開始。その後、磁気共鳴画像法(MRI)による脳研究へ。平成15年より7年間、米国国立衛生研究所で研究に従事し、この春より大阪大学 iFReC WPIプログラムに参加。現在、中枢神経系における免疫機構のダイナミクスを捉えるべく、磁気共鳴法やその他のイメージング手法を用いた研究に取り組む。